

品質カイゼン室の花のソコが知りたい！

ラナンキュラス編 (Part. 2)



日本産花き（生鮮）の輸出動向として6年前に比べ倍以上も多く推移しています。

なかでも日本産のラナンキュラスは
色、形とバラエティ豊富なところが
海外でも好評です。



地中海原産のラナンキュラスですがなぜ日本産のラナンキュラスがバラエティ豊富に進化したのでしょうか。今回はソコを調査してみました！



学名 : *Ranunculus asiaticus*

分類 : キンポウゲ科ラナンキュラス属

主な国内生産地

長野 長崎 香川 宮崎

千葉 福岡

巨大輪ラナンキュラスのスタート ビクトリアストレイン



13 世紀に十字軍がフランスに持ち帰り、トルコ宮廷で改良され、ヨーロッパへ導入されていったラナンキュラス。その後も改良が重ねられ、1968 年、上の写真にあるビクトリアストレインなどが作出されました。

しかし、色のバリエーションが少なく、また色が強いこと、茎も曲がっていたことから日本の市場には受け入れられづらかったのです。。。。



そこで日本のラナンキュラスは進化しました！ 市場に受け入れられる花へ！



茎は細く
硬く！



色の
バリエーション
増加



形も豊富に！



どんどん進化している日本が誇るラナンキュラスをご紹介します。

異種間交配 ラックスシリーズ



ラックス ピュタロス



ラックス エリス

ランンキュラスといえば花弁が100~200枚以上ある姿が今、一般的ですが、
原種の花弁は**5枚**ほど、ウマノアシガタなどがイメージ的に近いです。

その一重原種にちかいものと異種間交配して生まれたのがこのキラッキラな「ラックスシリーズ」なのです。

徐々に生まれた モロッコシリーズ



モロッコ シャウエン



モロッコ ハッドウ

変異したものをかけ合わせて、かけ合わせて、メリクロンで増殖し、
栄養系統で生まれたモロッコシリーズ
もふっとした姿が特徴のランンキュラスです。
おしべの部分が花弁へ変異し、このもじゃもじゃを創り出しています。

原種が5枚の花弁のランンキュラス

ラックスとモロッコが同じ品目とは一見分からないですよネ・・・

バラエティ豊富なランンキュラスに出会えるのも育種家の方々の日々の研究の賜物です！

ラナンキュラスを楽しむ

ラナンキュラスを切花日持ち試験をした結果、**10日**程度楽しむことが出来ました！

生け水は切花栄養剤を用いた方が発色や展開が大きくなります。

茎がガーベラのように弱いものもあるので浅水の方がおすすめです。

10日



日持ち試験 8日目 切花栄養剤使用



日持ち試験 7日目 左：生け水 右：切花栄養剤



筆者がラナンキュラスの原産地、地中海性気候を持つトルコを訪問したときにはビクトリアストレインのようなラナンキュラスはありましたが、他の品種のラナンキュラスは見当たりませんでした。

(←トルコ アンタルヤにて撮影)

日本のラナンキュラスがこんなにもバラエティ豊富に進化したのは、当初日本では受け入れられなかったことから、ニーズを調べ、提供していき、ユーザーに求められる形に進化したからなのでしょう。

逆境を強みに変えたラナンキュラス、
寒い部屋を暖かく彩ってくれますよ。

参考資料

- ・(有)綾園芸 草野修一 花葉会賞受賞記念講演2「育種はサービス産業 育種はエデュケーション」
- ・全国花き輸出拡大協議会の輸出対策事業の取り組み 平成29年度 輸出対策事業活動報告会
- ・品質カイゼン室の花のソコが知りたい！
ラナンキュラス編



画像提供

(有)綾園芸 様

株)大田花き
品質カイゼン室

